

アドバイザー派遣事業実施レポート

研究団体名 加茂中学校・溝口中学校合同研究会
会 長 遠田 佳代子

研修テーマ 「全員が力を発揮し、高め合える授業を目指して」

実施期日、会場

第1回 平成27年 6月22日 (月曜日)	会場 伯耆町立溝口中学校
第2回 平成27年11月26日 (木曜日)	会場 米子市立加茂中学校
第3回 平成28年 1月25日 (月曜日)	会場 伯耆町立溝口中学校

アドバイザー 中京大学 国際教養学部教授 杉江 修治 先生

研修のまとめ

第1回 (溝口中学校会場)

第1回研究会は、協同学習の経験のある教員による公開授業。これを模範として経験のない教員が、後の研究会で公開する予定である。午前中は溝口中学校の教員が2～4限に2名ずつ計6名、午後は1名の公開授業を行った。教員個々のスキルや手法の違いはあるものの、生徒は一貫して全員協力して課題を達成していく雰囲気できており、安定して授業を受ける様子が見られた。杉江先生からもこれまでの取り組みが定着しており、子ども達が積極的に授業に参加していることを評価いただいた。ただ、大人数でもこのような授業



が成立すること、現状に甘んじていると突然学校が荒れる危険性があること、現状の課題を把握して次の対策をたてること、などの指導をいただいた。現状で授業が成立していると勘違いすることなく、本校職員が感じている多くの課題を整理し、次の対策を打ち出す必要性を感じた。

第2回 (加茂中学校会場)

加茂中学校の教員が3名、授業公開をした。「学習課題は適切であり、振り返りの時間が確保されていたか。」「生徒が学びの見通しをもち、学習に主体的に参加するしかけがあったか。」「ともに学び、ともに高め合う授業の工夫が見られたか」の3点を共通実践として、各教科の授業研究会を実施した。本時の授業の構成・ねらい・学習課題の提示方法については、指導案作成段階から杉江先生に綿密な指導をいただき、何度も指導案を訂正していった。その訂正の過程は全職員に伝えていたので、指導助言の時間がより実りの多いものとなった。また、10月にも授業研究会を行っており、そこでの研修も本研究会の成果につながったと感じている。

第3回 (溝口中学校会場)

第3回研究会は、溝口中学校の教員が5人、授業公開をした。杉江先生の指導講評では、次のような指導をいただいた。①アクティブラーニングは動けばいいのではない。目的意識と意欲付けが大切。そのため本時目標はきちんと生徒に認識されるものでなくてはならない。②活動や本時目標の設定が低い。モチベーションが上がらない。③個人と集団の目標(責任)を生徒がきちんと認識して活動させること。④自主的に動けるようにするため、本時の動きはしっかりと伝えいつでもわかるようにしておくこと。⑤人数が少なく教員との距離が近いと生徒は教員に依存傾向になる。支援のあり方を確認すること。これらの課題に対して具体的な改善例を挙げながらの指導で、とてもわかりやすく納得のいくものであった。特に、今回の研修では目標のあり方に改善の余地があり、新たにアクティブラーニングという視点からも協同学習を見直す機会をいただいた。次は来年度に向けて新たな課題克服に向けた取り組みを計画していく。